



イヌイトが校長室に

校長室に突然、イヌイトの2人がやってきました。よく顔を拝見してみると、生徒会長の崎浜空音さんと副会長の野里安万乃さんです。



イヌイト(Inuit)は、カナダ北部などの氷雪地帯に住む先住民族のエスキモー系諸民族の1つで、人種的には日本人と同じモンゴロイドです。遺伝子的にも日本人と共通の祖先がいるそうです。

イヌイトの冬服は、アザラシやカリブー(トナカイ)の毛皮でつくられており、世界でもっとも優れた防寒着らしいです。アノラックとよばれる外とうは、顔を出す部分と袖口以外にはすきまがなく、大きめにつくっているのので、服と身体との間に暖かい空気の層ができ、これが保温のはたらきをしています。このアノラックの毛が校長室にいっぱい落ちていました。清掃当番にご迷惑をおかけしました。

このイヌイトの民族衣装は、図書館で展示されていました。引き続き、アイヌの民族衣装が展示されています。(11月27日まで)

アイヌ民族とは13世紀あたりから北海道から東北地方にかけて独自の文化を形成した「狩猟部族」の総称です。現在は北海道を中心に樺太や千島列島にかけて住んでいます。

北海道に昔から穏やかに暮らしていたアイヌ民族は、本土からやってきた日本人に差別や迫害を受けたりしていました。



「図書だより」より

いずれも、「異文化理解を！」と図書館で企画されたものです。そして、沖縄(琉球)の事についてもいろいろ調べてみてはどうでしょうか。図書館に足を運んでみてください。新しい情報に出会え、新しい発見があるかもしれません。

県総合文化祭

第44回沖縄県高等学校総合文化祭総合開会式が沖縄市民会館大ホールにて11月6日(金)に、開催されました。

第2部舞台発表で「県合同オーケストラ」「放送部門」「弁論部門」「合唱部門」等が披露され、「英語部門」において、本校2年の崎浜空音さんが発表しました。堂々たる発表とそのスピーチには、周りにいる他校の校長先生から絶賛でした。

ありがとうございました。



アドラーの言葉

「自分を責める」となぜ幸せになれないのか？

できない自分を責めている限り、永遠に幸せになれないだろう。今の自分を認める勇気を持つ者だけが、本当に強い人間になれるのだ。



劣等感を克服するためには過度な思い込み=ベーシック・ミスティクを改める必要があるようです。しかし、それだけで劣等感を克服することはできません。では、どのように考えれば劣等感を克服できるようになるのでしょうか。そのためには、自分のダメなところをなくすのではなく、ダメな自分をそのまま受け入れることが必要です。つまり、完全であろうとするのではなく、不完全なままの自分を受け入れるのです。

人は「不完全さを認める勇気を持つ」ことが必要である。完全であろうとするから苦しくなる。なぜならば完全な人間など、この世に一人も存在しないからです。ダメなところがあり、できていないところだらけの、そのままの自分を認め好きになるのです。「ありのままの自分を受け入れる」ことを心理学用語では「自己受容」と言います。「不完全さを認める勇気を持つ」。それこそが自己受容をするために最も必要なことではないでしょうか。

Only If (もしも欠点を克服したら) I'm OK なのではなく、Even If (欠点があってもなお) I'm OK とする勇気。それこそが「不完全さを認める勇気」です。その勇気を持つ人だけが本当に強い人間であり、幸せになれるのです。

球陽生！必ずや幸せになってみせようぞ！